

調査結果の分析（屋根工事業）

①作業場面の分類

ヒヤリ・ハット事例を作業場面ごとに分類し、発生件数を集計した結果は表1の通りである。

「屋根上での作業中」に発生したヒヤリ・ハットが62件中35件（56.5%）と、全体の6割近くを占めている。以下、「足場、はしご上」が13件（21.0%）、「揚重・荷降ろし作業中」が11件（17.7%）、「その他」が3件（4.8%）となっている。

表1

分類	件数	割合
屋根上での作業中	35件	56.5%
足場、はしご上	13件	21.0%
揚重・荷降ろし中	11件	17.7%
その他	3件	4.8%
合計	62件	100%

②事故の型

ヒヤリ・ハット事例が、仮にヒヤリ・ハットにとどまらず労働災害となった場合に、その事故の型を項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表2の通りである。

事故の型のうち、「飛来・落下」が報告のあった62事例中27件（43.5%）で最多となっている。続いて「墜落・転落」が25件（40.3%）、「転倒」が19件（30.6%）となっている。

（割合は、報告のあった62事例に占める当該事故の型の件数である。）

表2

事故の型	件数	割合
飛来、落下	27件	43.5%
墜落・転落	25件	40.3%
転倒	19件	30.6%
切れ、こすれ	6件	9.7%
崩壊・倒壊	5件	8.1%
激突	4件	6.5%
踏み抜き	2件	3.2%
交通事故（道路）	2件	3.2%
高温・低温の物との接触	1件	1.6%
有害物との接触	1件	1.6%
交通事故（その他）	1件	1.6%
動作の反動、無理な動作	1件	1.6%
合計	94件	152%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。

③原因（ヒヤリ・ハット体験時の心身状態）

ヒヤリ・ハットを体験した際の原因と思われる心身状態について、項目ごとに分類した。選択した項目（複数選択可）を集計した結果は表3の通りである。

原因のうち、「不注意（見落とした、気づかなかった等）」が報告のあった62事例中71件（114.5%）で最多となっている。続いて「危ないと思っていなかった」が22件（35.5%）、「よく見えなかった」が18件（29.0%）となっている。（割合は、報告のあった62事例に占める当該原因の件数である。）

表3

原因	件数	割合
不注意（見落とした、気づかなかった等）	71件	114.5%
危ないと思っていなかった	22件	35.5%
よく見えなかった	18件	29.0%
大丈夫と思い手順を省略した	20件	32.3%
身体のバランスを崩した	12件	19.4%
予測違いをした	7件	11.3%
手順、急所を忘れていた	4件	6.5%
身体がついていかなかった	4件	6.5%
見間違い、思い間違い	5件	8.1%
やり違い	2件	3.2%
よく聞こえなかった	1件	1.6%
身体、気持ちが疲れていた	1件	1.6%
合計	167件	269%

※複数回答可のため割合の合計は100%にはならない。